

ふるさとファイル

長岡京発掘の道程

展示コーナーだより
第 65 号
平成 28 年 1 月
生涯学習課文化財係

展示期間
平成 28 年 1 月 5 日(火)～3 月 31 日(木)
(図書館休館日は除く)
※期間中、一部展示資料を入れ替えます

今年は長岡京跡を発見し、その調査・解明・周知に半生を捧げた故・中山修一先生の生誕 100 年にあたります。中山先生の往時を知る人も年々少なくなる昨今、ここでは長岡京の発見から発掘調査が行政的に軌道に乗る昭和 50 年代までを振り返ります。

かいしょうもん 会昌門の発見・学術調査の時代

昭和 30 年の会昌門（現・朝堂院南門）の発見により、長岡京の存在が明らかとなりました。ここに長岡宮の発掘調査による解明が始まったのです。以後、大極殿、朝堂院などの宮城諸施設が次々と発見されていきました。

当初は京都大学考古学研究室などが指導し、中山先生と先生の教え子、学生による無報酬、手弁当の調査でした。

やがて中山先生の熱心な陳情活動の結果、昭和 39 年からはようやく京都府が調査予算を認め、公費による調査への道が開けます。

しかしこの頃から開発工事が急激に進んで遺跡の破壊が深刻となりますが、行政、開発側ともにまだ埋蔵文化財への理解が進んでおらず、公共事業ですら十分な調査は困難な状況で、重要な遺構が見つかっていても保存への道は開けていませんでした。調査と保存の必要性を叫ぶ大学側と行政との対立も深刻化する中、昭和 41 年、「乙訓の文化遺産を守る会」が結成され、調査体制の強化と遺跡の保存運動が展開されました。

長岡京発掘調査の履歴(単位：件)

学術調査の時代（京都大学指導）									
西暦	1954 年	1955 年	1956 年	1957 年	1958 年	1959 年	1960 年	1961 年	1962 年
和暦	昭和 29 年	昭和 30 年	昭和 31 年	昭和 32 年	昭和 33 年	昭和 34 年	昭和 35 年	昭和 36 年	昭和 37 年
宮・左京・右京	1. 0. 0	0	1. 0. 0	0	0	4. 0. 0	1. 0. 0	1. 0. 0	0
学術調査の時代（京都府主導）								民間開発	
1963 年	1964 年	1965 年	1966 年	1967 年	1968 年	1969 年	1970 年	1971 年	1972 年
昭和 38 年	昭和 39 年	昭和 40 年	昭和 41 年	昭和 42 年	昭和 43 年	昭和 44 年	昭和 45 年	昭和 46 年	昭和 47 年
1. 0. 0	1. 0. 0	3. 0. 0	4. 0. 1	2. 0. 0	5. 0. 0	6. 0. 1	4. 0. 0	6. 0. 1	10. 0. 1
対応（緊急調査）の時代			（恒常的組織による調査の時代）						
1973 年	1974 年	1975 年	1976 年	1977 年	1978 年	1979 年	1980 年	1981 年	（受託停止）
昭和 48 年	昭和 49 年	昭和 50 年	昭和 51 年	昭和 52 年	昭和 53 年	昭和 54 年	昭和 55 年	昭和 56 年	
6. 1. 0	5. 2. 0	2. 2. 0	8. 6. 0	9. 6. 5	10. 10. 14	8. 20. 12	9. 29. 32	6. 4. 14	

民間開発への対応の時代

昭和46年、京都府は公費による調査は府が、開発工事に伴う調査は中山先生が私的に組織した「長岡宮跡発掘調査団」が行うことに分けました。このことにより開発に伴う調査の窓口は府から京都市、向日市、長岡京市、大山崎町の行政へと移行しました。

さらに昭和50年、長岡宮だけでなく長岡京域も周知の遺跡として登録されると、発掘調査件数は急激に増加していきます。中山先生は調査毎に結成していた調査団を恒常的な組織として編成し、「長岡京跡発掘調査研究所」として調査にあたるとともに「長岡京」ニュースを刊行し成果を市民に伝えました。

市町の行政へは経験豊富な研究所員を推薦し、行政の体制強化とともに所員の身分安定を図りましたが、これは研究所の体力を著しく消耗させることとなり、ついに昭和56年上半期をもって発掘調査の受託を停止せざるを得なくなりました。

この頃、府では増える府下の公共事業の調査に対応する組織として財団設立を検討していました。中山先生は長岡京を統一的に調査する部署を財団内に設置するよう運動を展開しましたが、残念ながら、研究所が調査受託を停止したことにより、市町がそれぞれに調査体制を整えることとなって現在に至っています。

かつて研究所で中山先生とともに苦勞を共にした所員も行政の中で定年を迎える時期になっています。また住民の中には研究所が解散してから移り住んできた人たちも多くなりました。

今、「歴史のまち」として豊かな環境を享受できる背景には中山先生の無私な貢献と戦いがあったことを忘れないようにしたいものです。



昭和49年、向日市・向陽高校建設時の発掘調査現場を指導する中山先生（下の写真右は調査を担当した府教育委員会の高橋美久二さん）

（長岡京市教育委員会所蔵資料）



「長岡京」ニュース
昭和52年3月の創刊号から、昭和59年3月の31号までが刊行されました

（長岡京市教育委員会所蔵資料）